



03

復旧・復興支援活動

岡山大学災害ボランティア支援センター（OVC）活動報告

2019. 3. 11

1. OVC 経緯と活動内容報告

これまでの岡山大学災害ボランティア支援センター（OVC）の活動概要は次の通り。

のべ 77 名の学生・教職員が OVC の運営した活動に参加した。またボランティア説明会ならびに随時 OVC にて学生・教職員対象にボランティア活動にあたっての注意点や手順などの事前説明・ボランティア登録を行った。（7 月 11 日ボランティア説明会で登録した分を除き）累計で平成 31 年 3 月 1 日までに 128 名（うち教職員 4 名）が登録している。

日時	内容	備考
2018. 7. 11（水）	ボランティア説明会、学生 237 名が参加	
7. 17（火）	OVC（仮）活動開始 日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）との包括連携協定締結	教職員・学生有志による運営体制
7. 21（土）	総社へのボランティア送迎バス 参加者 13 名（うち教職員 2 名）	Gakuvo と連携
7. 24（火）	OVC が危機対策本部の下に設置される	
7. 28（土）	岡山市東区へのボランティア送迎バス 参加者 17 名（うち教職員 2 名）	Gakuvo と連携 岡山市取材
8. 4（土）	倉敷市真備へのボランティア送迎バス 参加者 32 名（うち教職員 5 名）	Gakuvo と連携
8. 7（火）	ボランティア座談会 学生 3 名（うち留学生 1 名）と教員が参加	広報室主催
8. 20（月）	被災地の中高生を岡大に受入れ 参加学生 5 名（ほか教育学部より数名）	Gakuvo と連携
11. 7（水）	災害ボランティア活動（ワークショップ） 参加学生 6 名（ほか教職員 4 名）	OVC 主催
11. 17（日）	「平成 30 年 7 月西日本豪雨災害学生ボランティア報告会」に学生発表（教職員を含む多数参加）	大学コンソーシアム岡山主催

2. OVC 窓口の無人化

平成 30 年 12 月 28 日より、一般教育棟 A 棟 1 階の OVC 窓口を無人化し、電話・メール連絡による対応に切り替えた。

3. 教訓と反省

- OVC が本学危機対策本部の直下で活動できたことにより、迅速な意思決定が可能になったとともに関係部門（安全衛生部・学務部・総務部・広報室・財務部等）からの多大な支援を頂きながら活動できたことは、大変ありがたかった。
- 発災後早期に日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）と協定を締結し、リソース（バスチャーター費用、器材等）を得られたのはよかった。一方でそのリソース以外の活動を制限する結果ともなってしまった感もあり、他のリソースを模索することができればよかったかと感じる。
- 活動内容が、自治体ボランティアセンター下で泥かき等の労働力拠出という内容に偏ってしまった。一部で地域の NPO 等と連携した被災者のニーズ調査等も行ったが、こうした活動を大学としてより行っていければよかったと感じる。
- OVC の活動への教職員の協力を広く呼びかけることが徹底できず、一部教職員に過度の負担がかかってしまったとともに、活動内容と量が制約されたことは反省すべき点である。
- 有志の学生が活動に参加しただけでなく、事前説明の実施や活動企画・広報等、センターの運営に大きな力を発揮してくれたことは特筆すべき点である。
- 被災地支援に頑張る学生も心身のストレスや悩みを抱えており、大学としてそのケアをより注意して行うべきであった。
- 参加した留学生含めた学生が現地で学んだことは多く、こうした地域での学びを「ボランティア」だけでなく、教育としても取り入れていく必要があると感じた。
- 発災後の情報が限られた状態下において、外部の NPO 等のネットワークからの被災地情報は活動に役立った。
- 11 月に実施した大学コンソーシアムの報告会では、県内大学がそれぞれの専門性や強みを活かして活動を行ったことを知る貴重な機会となった。こうした交流を進めていくことが、参加した学生の学びにもつながるであろう。
- 教育学部による学習支援等、OVC 外での学生・教職員によるボランティア参加も多数あったが、その全体が把握できなかった。ボランティアという活動の性質上、全てを知ることは難しいが、何らかの方法を検討してもよいかと感じた。

以上

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）

3-1 岡山県における被害概要

平成30年6月28日以降、北日本に停滞していた前線が、7月4日にかけて北海道付近に北上した後、7月5日には西日本まで南下してその後停滞した。また6月29日に発生した台風第7号は、東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日15時に日本海で温帯低気圧に変わった。この前線や台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。6月28日から7月8日にかけての総雨量は、四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるなど、7月の月降水量平年値の2から4倍となったところもあった。48時間雨量、72時間雨量などが、中国地方、近畿地方などの多くの地点で観測史上1位となった。平成30年の台風第7号及び前線による大雨について、「平成30年7月豪雨」と名称を定めた（7/9 14:00）。

岡山県の人的被害は、死者61名、行方不明者3名、重傷者9名、軽症者152名、合計225名（うち倉敷市が、死者52名、重傷者3名、軽症者103名、合計158名）、家屋等の被害は、全壊4,841棟 半壊3,129棟 一部損壊1,063棟 床上浸水2,902棟 床下浸水5,990棟 合計17,925棟（うち倉敷市が、全壊4,645棟 半壊844棟 一部損壊355棟 床上浸水109棟 床下浸水1棟 合計5,954棟）という激甚災害となった。岡山大学でも大学所有の半田山が2か所崩落し、近隣の住宅に被害をもたらす結果となった。

3-2 大学の対応

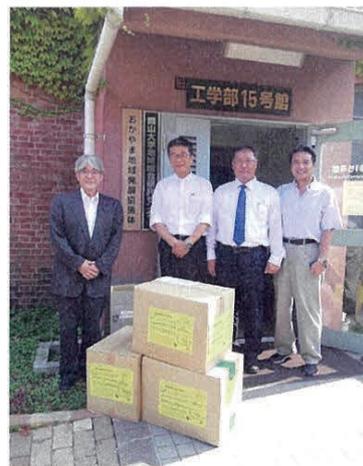
大学本部では、岡山大学災害対策本部が設置され本部長を榎野博史学長が担当した。

地域との関係では、地域総合研究センターが窓口となり、岡山県総合政策局と打合せ、県も総動員体制で復旧業務にあたっていることを理解した。また、岡山市政策局や倉敷市企画財政局など、被災自治体とも連絡を取り合いながら、復旧・復興の見通しについて情報収集を実施した。

■物資のお届け

大学院環境生命科学研究科の舟橋弘晃研究科長が岡山東ロータリークラブの会長をつとめられている関係で、同クラブより、静岡からの救援物資（新品タオル三箱）をお預かりした。7月17日に岡山市社会福祉協議会へお届けした。

こうした、小さな心遣いが、被災した方々の気持ちを少しでも和らげ、支援の一助につながればとの願いを込めた。



支援物資到着

▶3-2-1 岡山大学災害ボランティア支援センターの設置

岡山大学災害対策本部での議論を受け、学生の被災地でのボランティア活動を安全に実施するために、加賀勝副学長をセンター長、青尾謙副理事と地域総合研究センターの前田芳男副センター長の2名を副センター長、安全衛生部より明石正氏を専任スタッフとして、平成30年7月19日に「岡山大学災害ボランティア支援センター（OVC）」が設置された。

これに先立ち、発災直後は、多くの学生が復旧支援活動に行くことが予想され、特に7月14日（土）～16日（祝）の連休にはその数が多くなり、トラブルの発生が懸念されたため、7月11日（水）12時と13時の2回に分けて全学生を対象とした『学生災害ボランティア活動』説明会を一般教育棟201講義室で開催した。237人の学生が参加し、加賀勝副学長の挨拶、参加者全員による黙禱に続き、青尾謙副理事からボランティア活動の基本、発災・被災直後の初動対応、学生たちに期待すること、大学として体制などの説明がなされ、地域総合研究センターからは前田芳男副センター長が熊本地震の経験やまちづくりの専門家としての立場から、支援活動に赴くにあたっての準備や注意事項、保険への加入、現場でのマナーなどを説明した。



前田芳男副センター長



ボランティア説明会



説明会の様子（黙禱）

その後、青尾謙副理事を中心に、日本財団学生ボランティアセンターの支援を得てバスをチャーターし、学生・教職員が複数回にわたって復旧活動支援に参加した。また、個別に被災地に行く学生のためにスコップや長物、ゴーグルの貸し出し、保険加入手続きの説明などを常時行うためのカウンターを設け、センター長以下スタッフ及び学生ボランティアが対応に当たった。カウンターは、当初、本部棟1階ロビーに設置したが、学生のアクセスのよさを優先し、一般教育棟A棟1階に移した。カウンターは、平成30年の年末を持って閉鎖したが、安全衛生部において随時対応する体制をとっている。開設以来、相談に訪れた学生・教職員は126名であった。



水害作業マニュアル

学生のボランティア活動について、8月7日（火）に座談会を開催、学生3名と教員の現場での体験やボランティアのあり方に関する意見交換の結果を大学ホームページに掲載した。11月7日（火）には、学生6名とOVCスタッフ、学務部、地域総合研究センターの山田一隆准教授が参加し、



災害ボランティア支援センター



ボランティアの送り出し



OVCカウンターの風景

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）

学生ボランティア活動の課題を話し合うワークショップを開催した。ここで、ボランティア活動に関する平時の学習や意識啓発が必要との意見が出されたことを受け、山田一隆准教授が平成31年度の教養科目として「災害復興のまちづくり論」を開講することにした。



ワークショップの様子

▶3-2-2 倉敷市訪問

7月25日、岡山大学危機管理対策担当の菅誠治理事・副学長と三村聡センター長の2名が、倉敷市を訪問、倉敷市生水哲男 副市長、河田育康 副市長と約40分間面談し、真備地区の復旧・復興の現状をお聞かせ頂き、岡山大学の具体的な支援のあり方について、意見交換を行った。



冒頭、菅理事より、このたびの水害による死者・被災者の皆様はじめ関係者の皆様に対して、横野学長に代わり、哀悼の意、および、ねぎらいのメッセージをお伝えして、岡山大学のこの間の主な支援活動について報告した。

それに対して、生水副市長および河田副市長より感謝の意が伝えられ、資料に基づき、今回の豪雨災害からの復旧・復興に向けて、①被災状況の概要、②避難の状況、③復旧の進捗状況、④ボランティア活動を含む被災者支援関係について説明を受けた。



倉敷市

その要諦は以下の通り。

① 被災状況の概要

被災状況では、被害面積が約1,200ha、床下浸水を含む住宅被害が4,600戸、1.8mメートルを超過水害に合い全壊した住宅が2,818戸となっている。これは、倉敷市が示していたハザードマップに符合する結果となっている、としながら「平成30年7月豪雨による倉敷市真備町周辺浸水推定段彩図」及び「同推定浸水範囲の変化（資料3参照）」に基づき図面により説明。多大な瓦礫が発生、全ての処理には1年から1年半はかかる予測しており、また、ようやく浸水した箇所から水は退いたものの、県内はもとより、全国から様々な支援を受けながら、引き続き復旧作業がなされている。

② 避難の状況

真備地区が甚大な被害を受け、当該地区の岡田、菌、二万の三小学校だけでは、到底収容できないため、倉敷、水島、玉島、船穂はもとより、総社市にも支援を仰ぎ、7月25日現在で、2,306人が避難所へ避難している。そこへ倉敷市職員を分担して派遣している。一方、家族・親戚、知人・友人宅などに身を寄せている人も相当数いると思われる。

③ 復旧の進捗状況

まず、ライフラインは、水道が復旧した。ただし、取水量に制限を設けている状況である。下水道についても、一部を除き回復している。ただし、従来どおりのレベルで正常な浄化を行うためには、あと、1年程度はかかる見込みである。次に河川の状況であるが、国土交通省の迅速な対応で、小田川本流については修復作業が完了した。また、支流については県が担当、今月末までに修復作業が完了

する見込み。倉敷市としては、市が担当する農業用水路などに堆積した汚泥の取り除き作業が今後の課題となる。なお、ポンプが被害を受けているため国のポンプ車を残してもらい、それで作業を継続中である。

次に住宅については、学校を避難所として利用している場合、体育館のみならず、教室を使用している場合もあり、2学期までには空けないと、子供達の教育環境に問題が発生するため、迅速な応急修理や借上型仮設住宅の斡旋、紹介をはじめている。また、仮設住宅の建設（当面は200戸）については、極力、真備に近いほうが良いものの、まとまった敷地を確保するために倉敷市内の公園などから候補地を選定している。なお、水島地区をはじめ、使用していない社宅が多く存在する。耐震補強工事がなされていないため、県から使用許可が下りない。この点については、非常時である点を鑑み、県に期間を決めてでも使用を許可頂くよう、働きかけるなどのアクションをとりたいと考えている。

瓦礫の除去・処分については、現行の処理能力では、到底、追いつかないため、水島エリアに岡山県などがごみの破碎や分別といった中間処理を行う処理プラントを新たに建設することが検討されている。また、医療については、全国レベルで医療チームが現地に入り、活動を展開、災害診療（非常時対応）から一般診療（平常対応）に戻っている。窓口も県の保健所本部から備中県民局になり、保健師などによる巡回活動も開始され、歯ブラシを配るなど口腔ケアも進んでいるため、歯学部からお話があった口腔ケアについて話題提供したが、とりあえず、倉敷の歯科医師会は現地に入っているようで、当面は、それで様子を見よとの返答であった（緊急の要請は無かった）。

なお、被災者支援ボランティア関係では、真備地区へのアクセスは、中国職能開発大学校（倉敷市玉島長尾1242-1）体育館に設置した倉敷市災害ボランティアセンターを拠点に、加えて玉島ポートアイランド災害VC第1駐車場（岡山県倉敷市玉島乙島玉島ハーバーブリッジ手前）に車で入るボランティアや関係者向けの大規模駐車場を用意、鉄道では新倉敷駅北口と、3箇所から真備に向けてバスを出している。ボランティアの方々も、そこから真備町に入っていくようにしている。

今後の要請事項として、短期的には、猛暑の季節であるので、無理しないようご留意いただきながらも、学生さんに息の長い、復旧支援ボランティアに参加して頂きたい。また、長期的には、当面の復旧に向けたプロセスでも岡山大学に支援を頂きたいが、落ち着いた時点で、次は、「安心安全で、夢の持てる真備地区の復興」を目指したい。復興に向けた組織体制を組成する際に、都市計画、防災計画、交通計画、商業計画、医療ケア、文化・教育、まちづくりなど、幅広い専門的な知見で岡山大学に協力を頂きたい、との申し出を受けた。

今後は、現場の情報窓口を、倉敷市は企画財政局、岡山大学は地域総合研究センターとし、互いに連絡・連携をとることで合意した。また、具体的な組織体制については、互いが持ち帰り協議の上で、トップの方針を伝え合い確定させることで合意した。

激甚災害がもたらした事態から一刻も早く脱し、未来に夢が持てる安心・安全に暮らせるまちに再生するまで、息の長い支援活動を全学体制で展開する方針を決定した。

■倉敷市真備支所再開

浸水被害で、機能が麻痺していた倉敷市真備支所は、8月16日に全ての業務が再開した。三村聡センター長が現地視察した。真備のまちは発災当時に比べるとずいぶんと落ち着きを取り戻しつつあるものの瓦礫の山の撤去作業は相変わらず続いており、決壊した河川も土嚢が積まれて応急処置は施されているものの、元の姿に再生させるには、まだまだ、相当の時間を要することが感じられた。また、

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）

まちには災害地特有の臭いが漂うエリアも残っている。こうして真備地区のポイントを見て回り、最後に真備の地の由縁である奈良時代に吉備真備を輩出した吉備氏の氏寺「吉備寺」にて、この度の豪雨で亡くなられた方へのご冥福をお祈りし、あわせて、一日も早い真備の復興を祈念させて頂いた。帰学後、まだまだ復旧に時間がかかるとの報告を行い、復興に向けては倉敷市と協議を重ねながら岡山大学として可能な限りの支援を息長く続けることで一致した。



真備地区の様子

■倉敷市へアドバイス

8月29日、倉敷市からの要請を受け、他都市における大水害に関する影響分析について、大学院環境生命科学研究科の氏原岳人准教授が調査分析した結果を報告した。真備地区の場合は、他の大水害に見舞われた都市と比べて、浸水深度が6メートル近くに及び圧倒的に全壊、半壊、一部損壊、床上浸水の棟が多い点を指摘した。

倉敷市から感謝頂くと同時に、9月3日付けで倉敷市災害復興本部が立ち上がるとの説明を受けた。



氏原岳人准教授の説明を受ける
倉敷市職員

▶3-2-3 その他の対応

■ニュース報道

7月25日に開催された岡山放送番組審議会に三村聡センター長が出席し、大原謙一郎審議委員長（大原美術館名誉理事長）を座長に、今回の災害に関するニュースについて激しい議論がなされた。TVを見られない被災された方のことを考えると、ニュースは誰のために流されるのか、避難所に入って被災された方の様子を放映することに果たして問題は無かったのか等々、予定時間を超えた審議が続いた。

■農作物被害

7月29日、ようやく落ち着きを取り戻しつつある矢先、今度は台風接近となり、「平成30年台風第12号」と命名されたこの台風は、東から西、西から南へと進む異例のコースから、“逆走台風”と呼ばれる影響が読み難い台風であり、平成30年7月豪雨に続いて、また避難の準備に入った。岡山では、桃の収穫が最盛期を迎えており、台風一過、赤磐市の桃農家を訪問、豪雨や台風の被害状況についてヒアリングを実施した。出荷には、やや難がある商品が見受けられるなかで、見事な清水白桃を見せていただき安堵した。



赤磐市の桃農家

■福島大学来学

8月25日には、福島大学「うつくしまふくしま未来支援センター」（通称「FURE」）の天野和彦特任教授が来学され、今回の豪雨で大きな被害に見舞われた倉敷市真備地区での復旧・復興支援活動について、情報交換・意見交換をさせて頂いた（福島中央テレビ報道部のニュースデスクの方が随行）。



福島大学天野和彦特任教授

「うつくしまふくしま未来支援センター」は、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の発生直後、2011年4月に設立され、大地震・津波による大災害と放射能汚染によって避難を余儀なくされた福島の被災者と被災地域の復旧・復興を支援することを目的に設立されたセンターである。福島では、いまだに県内外に5万人を超える方々が避難を継続されており、ご苦労な日々が続いている。

現在、真備地区では、被災された方々の避難所から仮設住宅への移動や仮住まいとしての空き家やアパートの紹介による住まいの確保が課題になっている。天野先生からは、福島での経験から、住民の皆さんが、ばらばらに分散して生活を送ると、住みなれた場所を離れることによる無縁感・孤独感による孤独死などが増えることを懸念しており、こうした被災された皆さんの生活や心をつないでゆくハードとソフトの両面での施策展開の緊急性を指摘頂いた。現場で経験知を積まれた方のお話に耳を傾け、今後の大学間での連携可能性について学内で議論を進めることを確認した。

■岡山県議会で講演

岡山県議会は議員を対象とした9月12日『岡山県議会地域公共政策セミナー』を開催し、「平成30年7月豪雨災害の復旧・復興に向けた安心安全のまちづくり」をテーマに、大学院環境生命科学研究所の氏原岳人准教授と三村聡センター長が講師をつとめた。



高橋戒隆岡山県議会議長

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）

氏原岳人准教授からは、このたびの激甚災害で被災した倉敷市真備町の被災状況を、茨城県常総市の水害と比較しながら、その被害の大きさを比較、復興に向けたポイントと方向性を示唆させて頂いた。三村聡センター長は、東日本大震災の教訓から学ぶ、復興のデザインについて話題提供をさせて頂いた。高橋戒隆岡山県議会議長は、倉敷市真備の選出であり、冒頭のご挨拶を含め熱心に耳を傾けてくださった。また、岡山大学への復興に向けた支援についても「よろしく願いいたします」とのご依頼をいただいた。

セミナーの様子は、平成31年2月発行の「県議会だより」に掲載された。



「県議会だより」より抜粋



三村聡センター長



氏原岳人准教授(右)



会場の様子

■コミュニティ政策学会

平成30年7月豪雨災害により、福山市立大学で開催予定であった、同学会の第17回全国大会が中止となった。

平成31年2月25日、大会関係者が福山市に集まり、平成31年7月に「豪雨災害から1年、その復旧・復興と未来に向けたコミュニティ活動の在り方」をメインテーマに、広島県、岡山県の大学が連携して、自治体、まちづくり協議会、NPO、関係団体、学生に呼びかけ、中国研究支部による研究会の開催を決議した。

岡山県は岡山大学地域総合研究センターが合従連衡の窓口となる。

3-3 学生ボランティア活動

▶3-3-1 岡山市東区平島団地での活動

学生による学都チャレンジ活動を続けている学生サークル2団体が連携して、被災地支援ボランティア活動に参加した。そのひとつが、おかやま地域発展協議体おかやまスポーツプロモーション研究会(SPOC研究会)に参加し、岡山のスポーツまちづくりについて学ぶ学生たちで、彼らは、参加者の方と交流することで自分たちの活動をより、岡山のまちづくりの現状に沿った現実的なものにするために奉還町商店街において、岡山シーガルズやファジアーノ岡山のホームゲームに合わせた企画などを進めている「岡山プロスポーツ文化まちづくりサークルSCoP」である。そして、もうひとつの学生サークルが、瀬戸内市裳掛地区で耕作放棄地対策や子供たちの見守り、移住定住の促進活動などを展開し

ている「岡山大学まちづくり研究会」である。

彼らは、7月11日に開催された岡山大学『学生災害ボランティア活動説明会』に参加したあと関係者でミーティングを開催した。そこで、自分たちも何か具体的な支援活動を行えないか話し合い、今回の平成30年7月豪雨で、岡山市東区東平島地区は河川の決壊により甚大な被害を受け、この地区にある平島団地内の一画に事務所を構える岡山シーガルズも床上浸水となり活動停止になっていることが分かった。女子プロバレーボールチームである岡山シーガルズは、岡山県民に支えられながら活動する市民チームであり、平島団地の多くの皆さんからも支援を受けている。「岡山プロスポーツ文化まちづくりサークルSCoP」の学生たちは、日頃、岡山シーガルズがお世話になっている平島団地への支援ボランティアに入ることを決め、友好団体である「岡山大学まちづくり研究会」にも声をかけ、具体的な活動について計画を立てた。また、7月16日のファジアーノ岡山の公式戦に合わせて、活動拠点の奉還町商店街の入り口で街頭募金を実施することを決定、準備に入った。

7月13日、岡山県社会福祉協議会にて参加学生全員がボランティア保険への加入手続きを済ませた。また、同日、顧問の三村聡センター長から平島団地の町内会長に、7月16日9時30分から8名の学生がボランティア活動に参加することを伝え、会長から岡山市の災害ボランティアセンターに伝えて頂く手続きをとった。

7月16日8時30分、地域総合研究センターに集合した学生たちは、三村聡センター長からボランティア活動の諸注意を受けたのちに2台の車で現地へ向かった。岡山シーガルズの本拠地に到着後、荷物を置いてからボランティアの活動拠点である平島団地公民館で受付を済ませた。担当は、復旧半ばで拠点となっている平島団地公民館の復旧。室内は大部屋が二つあり、床に汚泥が積り、壁も浸水した位置まで泥が付着、すでにカビが発生している状態で、さらにトイレや厨房など小部屋の奥まで泥が流れ込み固まっていた。室内から泥をかき出し、消毒液を入れたバケツに新聞紙を丸めて浸してから部屋にまき、新聞紙ごと掃除をしてから水拭きして、最後に消毒液を散布した。また、備品の椅子なども泥だらけであり、外へ運び出し洗浄して干す作業や、公民館の庭のベンチや花壇に付着した汚泥の洗浄作業を実施した。

若い力の結集により、公民館の清掃にめどが立ったため、最後は岡山シーガルズ事務所周辺の側溝に堆積した泥をかき出す作業を手伝った。



復旧作業の様子

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）



復旧作業の様子

屋外での作業は36度と熱中症の恐れが指摘されており、屋内ですら風通しが良いとは言えない環境で消毒液を散布する作業などがあったため、幾度となく休憩時間をとりながら、併せて水分補給に十分に気を配りながらの作業となった。公民館でボランティアスタッフの世話をする町内会の役員さんの冷えた飲料水やきれいな氷、そして冷やしたキュウリの差し入れなど、手厚い心使いに学生たちの心は和んだ。また、昼休みは岡山シーガルズの事務所で休息をとらせて頂き、スイカをごちそうになった。さらに事務所は合宿所にもなっている関係で、お風呂でシャワーをお借りすることができた点は、通常のボランティアの皆さんに比べ恵まれていた。

岡山市東区平島団地地区における学生ボランティア活動は、9時30分開始、15時までで、けがや熱中症も無く無事に終了、平島町内会の皆さんや岡山シーガルズの皆さんに挨拶をして帰路についた。

なお、岡山市の広報誌「市民のひろばおかやま9月号」の表紙に岡山市東区での災害ボランティアの写真が掲載され、岡大生たちの姿も掲載された。



岡山市広報誌(清掃活動)

▶3-3-2 街頭募金活動

岡山市東区平島団地地区でのボランティアと同日、さらに有志の学生が奉還町にて、災害支援募金の街頭活動を、16時30分から18時30分の2時間実施した。事前に届けを提出した奉還町商店街組合の岸卓志理事長も顔を出してくれ、道行く人にも声をかけてくださった。また、冷えた飲料水の差し入れを頂いた。募金協力人数は、延べ164人、募金総額は23,014円。学生たちは、今回の活動の振り返りや今後の活動方針、さらに集めた募金の届け先などについて協議した。

岡山県は、台風直撃無し、大雪も無く、地震も活断層が極めて少ない、原発も遠い、ゆえに防災意識が全国で一番ひくい県だと言われている。この度の大水害で岡山県民の絆が試されており、必要なことは、現地に入る活動、救援物資を届ける活動、募金活動、自宅からできる活動、いろいろな復旧支援活動があるなかで、いまできる支援活動は、小さくとも、何かできる活動を行うことが大切であると学生たちは貴重な経験を積むことができた。



募金活動を行う学生たち

▶ 3-3-3 矢掛町での復旧支援活動

岩淵泰助教の教養科目「岡山まちづくり論」の中で、受講学生が、被災した矢掛町中川地区にて、復旧支援活動を行った。酷暑の中、泥カキや家財道具の運び出しを手伝った。

（詳細は後述（9章 実践型社会連携教育科目）を参照。）



矢掛町での復旧支援活動の様子

▶ 3-3-4 倉敷市真備地区での岡山大学応援団総部吹奏楽団の活動

8月下旬に開設された避難所「くらしき健康福祉プラザ」の移転・開設に伴い、岡山大学応援団総部吹奏楽団の学生たちが、8月、9月の1か月間、ほぼ連日、ボランティア活動に参加した。仮設ベッドの組み立て、力仕事、避難所の皆さんのお世話や話し相手などを交代で続けながら、被災された皆さんに寄り添う活動をやり抜いた。

10月に入ると授業が始まり毎日通う事は出来なくなったものの、活動は継続してゆくと決意を固めた。その報告に、黒川美樹団長（教育学部）が報告書を携えてセンターを訪れた。

なお、この活動は、全学教育・学生支援機構の坂入信也教授と中山芳一准教授が学生をコーディネート、倉敷市との窓口・連絡調整を三村聡センター長が担当した。

奉仕活動一覧表

活動日時	活動場所	時間	活動人数	活動内容
8月5日（日）	きらめきプラザ	10:00～16:00	1名	聴覚障害のある子どもの学習支援
8月6日（月）	岡山大学	15:00～16:00	1名	読み書き障害のある子供の学習支援
	倉敷市民会館	9:00～16:30	2名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
8月7日（火）	倉敷市民会館	8:30～17:30	3名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
	総社南高校	9:00～12:00	1名	中学生の学習支援ボランティア
8月8日（水）	学内	8:30～10:00	56名	学館周辺・清水記念体育館西・旧ボックス周辺清掃
	総社南高校	9:00～16:00	1名	学習支援ボランティア
8月9日（木）	倉敷市民会館	8:30～16:00	3名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
	矢掛町	9:00～12:00	1名	庭の片づけ、泥除け作業
8月10日（金）	倉敷市立菟小学校	10:00～16:00	1名	菟っ子まなびのひろばのボランティア（学習支援、遊び）
	倉敷市民会館	9:00～16:00	2名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
	総社南高校	9:00～16:00	2名	中学生の学習支援ボランティア
8月11日（土）	倉敷市立菟小学校	13:00～16:00	1名	菟っ子まなびのひろばのボランティア（学習支援、遊び）
	倉敷市民会館	9:00～18:00	2名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
8月12日（日）	倉敷市民会館	8:00～19:30	8名	岡山県吹奏楽コンクール手伝い
8月16日（木）	倉敷市立菟小学校	10:00～16:00	1名	菟っ子まなびのひろばのボランティア（学習支援、遊び）
8月19日（日）	旭川荘療育園	15:00～17:00	1名	児童が行うスポーツの補助
8月20日（月）	倉敷市立菟小学校	10:00～16:00	1名	菟っ子まなびのひろばのボランティア（学習支援、遊び）
	岡山大学	15:00～16:00	1名	読み書き障害のある子供の学習支援
	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	1名	学童保育ボランティア

3 平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）

活動日時	活動場所	時間	活動人数	活動内容
8月21日（火）	倉敷市立園小学校	10:00～16:00	1名	菌っ子まなびのひろばのボランティア（学習支援、遊び）
	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	5名	学童保育ボランティア
	総社中央公民館	13:30～15:00	1名	避難している子供の学習支援
8月22日（水）	旭川荘療育園	10:45～12:00	1名	工作活動の補助
	学内	8:30～10:00	52名	旧ボックス、ピーチユニオン北側の遊歩道周辺
	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	3名	学童保育ボランティア
	倉敷市真備町	9:00～15:00	1名	被災者宅のがれき撤去、屋内清掃
8月23日（木）	総社中央公民館	10:30～12:00	1名	避難している子供の学習支援
	総社南高校	9:00～16:00	1名	学習支援ボランティア
8月24日（金）	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	2名	学童保育ボランティア
	総社南高校	9:00～16:00	1名	学習支援ボランティア
8月27日（月）	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	1名	学童保育ボランティア
8月28日（火）	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	3名	学童保育ボランティア
8月29日（水）	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	1名	学童保育ボランティア
	学内	8:30～10:00	31名	旧ボックス周辺、一般教育棟北用水沿い
	くらしき健康福祉プラザ	9:00～16:30	14名	避難所の移設、新設（写真1）
8月30日（木）	総社中央公民館	10:30～12:00	1名	避難している子供の学習支援
	玉島公民館長尾文館	13:00～18:30	2名	学童保育ボランティア
8月31日（金）	水島愛アイサロン	9:00～16:30	17名	出張!岡大教室のボランティア
9月1日（土）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	5名	避難所への引っ越し手伝い等
9月2日（日）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	8名	避難所への引っ越し手伝い等
9月3日（月）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	看板づくり、利用者の方との団欒
	岡山大学	15:00～16:00	1名	読み書き障害のある子供の学習支援
	宇野港	7:30～8:30	1名	グリーンバード岡山チーム主催のゴミ拾い
9月5日（水）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	時間割表やカードづくり、清掃、利用者の方と会話
	学内	8:30～10:00	38名	銀杏並木、旧ボックス周辺
9月6日（木）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	床掃除、トランプ作成、段ボールまとめ
9月7日（金）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	支援物資の服の整理、貼り紙作成、利用者の方との交流
9月8日（土）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	支援物資の服の整理、利用者の方との交流
9月9日（日）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	支援物資の服の整理、貼り絵の作成、利用者の方との交流
9月10日（月）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	掲示板の作成、トランプを使って利用者の方との交流
9月11日（火）	岡山大学	15:00～16:00	1名	読み書き障害のある子供の学習支援
9月11日（火）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	掃除、体操、利用者の方と交流
9月12日（水）	学内	8:30～10:00	31名	旧ボックス・学館周辺
	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	清掃、体操、利用者の方との交流
9月13日（木）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	利用者の方との交流、折り紙や貼り絵の作成（写真2）
9月14日（金）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	折り紙、ファイルたての飾りつけ、利用者の方との交流
9月15日（土）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	利用者の方・利用されていた方との交流、名前マグネットの作成、切り絵
9月16日（日）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	支援物資の服の整理（写真3）、利用者の方との交流
	学内	10:00～11:00	10名	大学構内（文学部北、一般教育棟北用水沿い）のたばこ吸い殻拾い（写真4）
9月17日（月）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	敬老会のロゴ・プレゼント用折り紙作成（写真5）
9月18日（火）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	ファイルたての飾りつけ、物資の整理、利用者の方との交流（写真6）
9月19日（水）	学内	8:30～10:00	45名	旧ボックス・学館周辺の清掃
	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	敬老会のとときの写真の飾りつけ、折り紙、利用者の方との交流
9月20日（木）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	布団の片づけ、清掃、物資の整理
9月21日（金）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	物資の整理、机等の配置変更、段ボールでの棚作成（写真7）

活動日時	活動場所	時間	活動人数	活動内容
9月22日（土）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	棚の修繕、カレンダーづくり、利用者の方との交流（写真8）
	レストパーク	10:00～15:00	1名	地域のお祭りのお手伝い、出店補助
9月23日（日）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	カレンダー・備品の見取り図づくり、利用者の方との交流
	旭川荘療育園	15:00～17:00	1名	児童が行うスポーツの補助
9月24日（月）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	物資の整理、掃除や体操前のアナウンス、利用者の方との交流
9月25日（火）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	支援物資の服の仕分け、利用者の方との交流
9月26日（水）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	
9月27日（木）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	
9月28日（金）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	
9月29日（土）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	
9月30日（日）	くらしき健康福祉プラザ	9:00～17:00	2名	

* 9月4日(水)は台風のため倉敷市ボランティアは無し。* 9月26日(水)以降は予定

平成30年 9月24日

応援団総部吹奏楽団
団長 黒川美樹

倉敷市でのボランティア報告

応援団総部吹奏楽団は、中山芳一先生からのご連絡により、9月からの1か月間くらしき健康福祉プラザにて開設されている避難所へボランティアに行かせていただいております。以下に、倉敷市でのボランティアについての報告をさせていただきます。

8月29日(水)に、9月からの1か月間お世話になるくらしき健康福祉プラザにて避難所の移設・新設のお手伝いを14名でさせていただきました。この日は現在くらしき健康福祉プラザ4階に避難されている方が2階へ移動されるためのお手伝い(段ボールベット設置や掃除、お荷物の移動)や避難されている方の少なくなった倉敷市の避難所を統合するための新しい避難所の設営のお手伝い(掃除、段ボールベット設置、間仕切りの設営等)をさせていただきました。添付資料②、写真1をご覧ください。

また、9月1日(土)より、継続的な倉敷市でのボランティアが始まりました。9月1日・2日の避難所の開設にあたって、避難されている方のお引越しがありません。私たちは、お引越しのお手伝いや掃除、娯楽のための遊び道具作りなどをさせていただきました。以降は、その日に必要な作業（今日は〇〇を作る、ここを整理する）をお手伝いさせていただくことや、利用されている方との共有スペース(添付資料②、写真6)での交流がメインの活動になっております。ですが、主に行わせていただいている避難されている方との交流が、非難されている方が外出されている場合は行えないため、私たちにできることを職員の方々と交えて考えた結果、貼り絵や折り紙、切り絵などを行い、少しでも避難所が楽しくなるようにと思い活動させていただいています。

このような経験は私たち一人ひとりにとってとても貴重な経験になります。利用者の方との交流においては、被災されたときの状況や真備の現状、これからどうしていくのかというお話を聞いているときはとても心苦しく感じることもありました。しかしながら、私たちが明るくお話しして下さる方々にむしろこちらが元気づけられるということも多々あり、非常に良い経験となったと思っております。

残り日数も少なくなりましたが、誠意をもってボランティア活動に参加させていただきます。また、10月以降も頻度は減少しますが、くらしき健康福祉プラザのほうへ伺い非難されている方のケアを少しでもお手伝いできればと考えております。

以上で倉敷市のボランティアのご報告とさせていただきます。

倉敷市でのボランティア報告

3

平成30年7月豪雨災害対応（地域総合研究センター関与分）



写真1：8月29日の避難所の様子

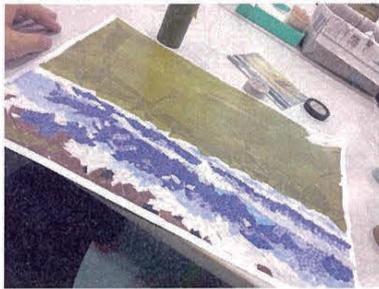


写真2：9月13日に作成した貼り絵



写真3：9月16日の支援物資の衣服の仕分け



写真4：9月16日に回収したたばこの吸い殻



写真5：9月17日に作成した看板



写真6：9月18日の避難所の様子



写真7：段ボール棚



写真8：カレンダー

3-4 倉敷市真備地区復興計画策定委員会

■第1回倉敷市真備地区復興計画策定委員会(11月21日)

甚大な被害が生じた倉敷市真備地区において、生活の再建に向けて住民が一日も早く安心して落ち着いた生活を取り戻し、再び真備町に戻っていただけるよう、復興に関する基本的な考え方及び主要な施策等を定める倉敷市真備地区復興計画を策定するため、倉敷市真備地区復興計画策定委員会が設置され、第1回委員会が真備保健福祉会館3階大会議室にて開催された。

真備地域や関係団体の代表者が揃い、伊東香織倉敷市長の挨拶ではじまり、7月豪雨災害の被害状況、そして復旧の状況と現在の課題、さらに復興に向けた今後の取り組みについて事務局から報告され、引き続き意見交換がなされた。

同委員会は、市民代表として真備地区7つのまちづくり協議会の代表者をはじめ、商工会関係者、学識経験者など20人で組織され、委員会では平成31年3月の公表を予定している復興計画の柱として、平成21年に策定した倉敷市都市計画マスタープランをベースに持続可能な地域として復興計画を審議していく考えである。1回目の委員会では、地区ごとに開催された復興懇談会であがった住民からの主な意見が紹介されたほか、出席した委員からも「被災前から担い手不足になっている農業に関して、集約化して大規模化するのはいかがでしょうか」といった意見や、「今回の災害を機に地域の体質改善を図り、新しい真備町を目指すべき」といった声が上がった。

学識経験者からは、東京大学の加藤孝明准教授、本学から環境理工学部の橋本成仁准教授、三村聡センター長（委員長に就任）の3名が参加、三村センター長が議事を進行した。



会場の真備福祉会館



三村聡センター長が委員長



マスコミ各社が報道

こうして、いよいよ復旧から復興に向けた本格的な議論がスタートしたが、テーマはまちづくりに関するすべての事案であり多岐にわたり、復興成就までは長い道りになる。とりわけ、今回の豪雨災害では、被災された皆様の不眠不休の努力、また国や自治体や多くの関係者の懸命の支援活動があったこと、とりわけ県内外からの大勢のNPOやボランティアの皆様の献身的な支援があり、ここまでたどり着けたことが、復興に踏み出せる誠に大きな力となった。岡山大学としても可能な限りの支援を続けることを表明した。

■第2回倉敷市真備地区復興計画策定委員会(12月20日)

復興計画の基本理念、基本方針、主要施策（ビジョン案）の検討が、真備を代表される組織・団体が集まり議論された。

住民や団体代表の方々と伊東香織倉敷市長をはじめとする行政関係者間で、未来を見つめた真剣かつ前向きな議論がなされ、調整役（委員長）を三村聡センター長が担当した。

まず年内に復興計画ビジョンが決定され倉敷市から公表されることとなり、この日の意見を反映して、最終修正が加えられ12月27日に発表された。

年明けからは、具体的な復興計画の全体像を平成31年3月末までに策定し、5年間の復興計画が決定される予定である。

目標は、被災前より、さらに住みたくなるまちを創造することであり、スピード感が重要ながら、一歩、一歩、地域の声を復興に織り込み、反映しながら着実に歩んでゆくことが大切であるとの意見で一致した。

なお、委員会の模様は、地元テレビ各局のニュース番組で放送された。

■第3回倉敷市真備地区復興計画策定委員会(1月30日)

第2回の本委員会における復興ビジョンの決定を受け、倉敷市は甚大な被害が出た真備町地区の住民を対象にした地域向け復興懇談会を、伊東香織市長が出席し、きめ細かく開催してきた。こうした活動を経て、平成31年1月30日、第3回委員会が開催された。

会では、来年度からスタートする5年間にわたる復興計画の具体素案が、倉敷市から地域の住民団体、関係組織などの代表（委員）に示され、大いに議論がなされた。

最終的な計画については、地域の委員から委員長をつとめる三村聡センター長に対して、今後の倉敷市との内容調整を一任された。

もう一段の地域関係者の方との話し合いから素案を推敲し、2月のパブリックコメントを経て、同委員会では、3月に正式な計画決定を目指した。

■第4回倉敷市真備地区復興計画策定委員会(3月18日)と答申提出(3月20日)

3月18日、5年間にわたる復興計画策定に向けて最終の議論がなされ、多くの意見が出されるなか、大筋で合意形成がなされた。

これを受けて、3月20日、倉敷市庁舎において、倉敷市真備地区復興計画策定委員会三村聡委員長が、倉敷市真備地区復興計画の策定について、「真備地区復興計画（案）」として答申を住民代表として読み上げ、伊東香織市長に提出した。

伊東市長から、最善を尽くして取り組む趣旨の決意表明が伝えられ、市は、これを踏まえて、平成31年3月末に「真備地区復興計画」を策定した。

